

## 会 議 録

会議の名称	平成25年度第7回富士見市社会教育委員会議
開催日時	平成26年2月1日（土）午前9時30分～12時00分
開催場所	教育委員会 2階 会議室
出席者	高野昂子委員、西山ひろみ委員、児玉亮一委員 田尻 円委員、長ヶ原美博委員、武田秀規委員 本間雄一委員、小森和雄委員、岩村沢也委員 事務局（生涯学習課長、副課長）
欠席者	千葉純平委員
公開・非公開	公開（傍聴人 0人）
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 協議事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 家庭教育施策の取り組みについて</li> </ol> </li> <li>2. 報告及び連絡事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生涯学習関係5委員会 研修・新年交流会</li> <li>(2) 第19回生涯学習フォーラムについて</li> <li>(3) 平成25年度入間地区社会教育協議会第5回社会教育委員部会</li> </ol> </li> <li>3. 会議の開催について</li> </ol>
会議資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 公民館だより（1・2月号）</li> <li>② 平成25年度入間地区市町社会教育委員研修会報告書</li> <li>③ この間の協議のまとめ</li> <li>④ 子どもたちを地域で健やかに育てる～地域の教育力と社会教育委員の役割（協議記録）平成19年5月28日</li> </ol>
会議録確認	武田秀規委員

## 会 議 内 容 (要点記録)

- 議長あいさつ
- 会議資料について  
事務局から、配布物確認と主な内容の説明を行う。

- 報告及び協議事項

### 1. 協議事項

#### 【進行議長】

#### (1) 家庭教育の取り組みについて

これまでの経過を踏まえてまとめました「資料」に基づき、これからの協議のポイントなどを事務局からの説明

【進行議長】委員から、県内市における育成会などの講師としての実践などから、いまの親の現状などについて、情報提供をいただく。

【委 員】県内市では、基本は文科省の家庭教育支援基盤形成事業、子育て親育ち講座を取り組む。都市化や核家族化から地縁的なつながりの希薄化、家庭の教育力の低下があり、家庭教育アドバイザーとしての親の学習、指導者と子育てアドバイザー、子育てサポートリーダーを養成していつている。多くの親が集まるさまざまな機会を活用して学習機会を作っていくというのが根本の考え方。家庭教育は、根本的には倫理観とか社会的学びと犠牲心、自立心を育成するということがあるかと思うが、これからは教育の基盤であるだろうという考えである。子育てに関心の低い親、学ぶ余裕のない親、親が親として育ち、力をつけていく学習機会をいろいろな場面で提供していくこと。そのために入学前とか入学してからとか、ここは家庭の役割とか子どもの育て方とかを大事にしていろいろな面ですすめている。

共働きが多く、幼稚園・保育園は（親の）対応がなかなか難しい。親が親になりきれていない。これまで大人は、子どもができると、親は子どもの生活の流れに行くが、いまは親の流れに引き込んだまま生活していくのが現状。「早寝・早起き・朝ごはん」と全く逆の生活が平然と行われている。

青少年教育は、全体の育成会の親に対する講演会、校区ごとの育成者研修会を行う。PTAはPTA運営講座をやっている。家庭教育学級では各校区も5回講座を開く。中学校では大きな行事で、高校説明会という、近隣の高校の説明を、親を集めてやっている。一方で、家庭教育支援チームとして3人担当がおり、いろいろな行事を行っている。その中で一番大きなのは、「家庭教育講座」を家庭教育支援チームが中心になって、幼稚園・保育園で行う。小学校は「親の学習講座」というので、以前はどこの学校も就学時健康診断の時に講師をこの中から選んで実施している。

【委 員】富士見市のPTAでは講演会はやっていないのがほとんどである。

【委 員】小中はPTAがあり、幼保は父母会とかあるが、幼保が一番大事なかなと思う。PTAの活動とまではいかななくても、親同士のコミュニティという機会を、小中だけでなく作ることが大事だ。そのために、一貫性のある組織に地域でしていけないといけない。

【委員】生涯学習活動は小学校区単位でいいと思うが、こういった教育というのは中学校単位でやったらいいのではないかと考えている。ある地域では、3校会長が集まって、中学校のエリアを中心に、連携している。3年くらい前から3校は懇親の場を作るようにしている。

【委員】学校だけに限定して今の状況は、何か新しい集まりを生み出すのは正直難しいところもある。でも私たちが活用できるのは、学期に1回の授業参観、その後学級懇談会があるので、そこにいかに保護者の方に残っていただくかということは学校の責任ではないか。授業参観で子どもの活動を観に来る親は結構いるが、その後学級懇談会に残っていただける方は、少なくなる。ここに面白いお話があったり、先生と話が来て有効だったとか、足元から巻き込んでいくことが、先ず一番のスタートかなと思う。改めて、例えば「おやじの会」とか別の組織を作って土曜日にやっていくというと、最初はどうもいくでしょうが、それを継続させていくことが、非常に大きな課題になっていくと思う。今ある中で充実させていくことを、学校では言っている。

【事務局】先ほどの何らかの工夫という中に、何かもう一つこういう制度があったら、例えばアドバイザーなどを派遣する制度があったら、ちょっとした最初の導入の部分を、県の方ではファシリテーターとかいう言葉を使って参加者の声をうまく拾い上げるとか引き出す人がいるが、そういう人を養成してお願いするとかということが可能なかどうか。

【委員】学級単位では小さいので学年単位とか、低・中・高のブロックとか、その工夫は十分できる。学校ができるということは、いついつ学級懇談会で授業参観があるとお知らせするので、それをうまく使って親を巻き込んでいくというのは、非常に有効な手段だ。

【委員】テーマによって持っていき方もいろいろある。学級懇談会の充実が、学校でできるひとつの有効な方法と考える。

【委員】関連で、淑徳大学で、今年から教育学部が立ち上がり、その時に地域との接点という形で何かできないかと模索し、三芳町の話ですが、公開講座を教育関係で1回やってみた。その時に一番問題になったのは、お母さんたちが来てくれるのということで、乳幼児を抱えていてそれで来れないとか、時間的な問題とか、公共交通機関がない、ということを見ると、土曜日、大学で保育をその時間に設けて行った。お母さんたちは、日常的な不安というのはある。子育てをどうしたらいいのか、学習とか勉強以前に、話したいところがいろいろあるのではないかなと考えている。それが例えば学校で行うと、何か役員を押し付けられるとか、何か役割を受けるのではないかとか、不安があるのではないかとか、いろんなハードルがある。内心興味があるので、ケアしていく方法はないだろうか考えた。大学で行うことで対策になるのかと考えている。それから、もうちょっとコミュニティレベルで、お母さんたちが気軽に行けるような「何とかカフェ」といったところで、今うちの

子どもはこんな問題を抱えているということを相談できないかという形でのアプローチでできる。

**【事務局】** 極端な例でいえば、公共の施設でも公民館でもないくらいの、全くやわらかいカフェでやって、そこに学生にちょっと保育的なものを手伝ってもらいとか、いろいろな工夫をし、時間帯も考えると、お母さんたちに集まってもらえるという工夫のものができあがて、そこを市がバックアップしていく、援助していくという方法もあるのかもしれない。

**【委員】** 地域コミュニティなんだと思う。何を教える、何をやるということよりも、自然体に人が集まれる場所、魅力ある場所作りを、地域、小学校なり中学校なりでいいけれども、みずほ台の地域にはなくて学校にばかり負担をかけてしまうという実情もあるけれども、本当に気軽にそういうことを相談できる、何か学びに来れるというところ。カフェでも、地域にある既存のところに協力していただくとかということでも十分だと思うので、集まって何かができるコミュニティスペースがあるのが一番理想的である。

**【委員】** 人を集めるのではなくて、ちょっと買い物に行くついでに立ち寄れるカフェとかがあれば、ちょっと休んで行こうかな、聞きたいことがあったら、そこにおじいちゃんおばあちゃんみたいな方がいたら相談できるとか、先輩のお母さんに相談できるとか、大学生の方がそこにいてくださるとか、逆にお母さん方の悩みを聞いて勉強に生かせるとか、という場所があるといい。そういうところが、自分が行き来している近くにあるといい。

**【委員】** 例えば「まちなか子育てカフェ」に、学校ともつながっている市民コーディネーターという、市民の立場で学校の状況も分かっている、かつ街中の動きなども分かるようなコーディネーターがいるといい。臨機応変に動けて、ネットかなにかで連絡できるようなシステムを作っていくようなコーディネーターというのが必要なのではないか。学校やPTAの役員がかかえてやろうとすると、PTAの役員もある意味当て職で、必ずしも得意とされている方ではないと思う。ちょっと違う方を育てていくのがいい。

**【事務局】** 今埼玉県に家庭教育アドバイザーとい市民の方が900人くらいいる。県で養成講座を開いて参加した人を登録させるという県の制度だが、そこに富士見市の方が18人いる。人材バンクには登録していないが、人材バンクとは別に、そういう制度があって、そういう人が地元の学校とかいろいろの地元の情報を学んだ上で、富士見市で動ける人材として活用できるような子育てコーディネーターのような形でいい。再養成しながらその人たちに動いてもらうような、新しい仕組みを富士見市単独で考えてもいい。県の制度をうまく利用しながら、そこにプラスアルファしてやっていくという方法もある。

**【進行議長】** 議論は次回までまとめることをお願いする。次回3月には、教育相談室における「親の学習」(就学時検診での説明)などの取り組みをアンケート結果など

も踏まえて、お話いただくことを予定している。

○次に、報告及び連絡事項を報告。

内容は以下のとおり。

(1) 生涯学習関係5委員会 研修・新年交流会

1月25日(土) 午前10時～午後2時30分 鶴瀬西交流センター  
社会教育委員の皆さんからは5名参加。全体としては、前半34名。

(2) 第19回生涯学習フォーラムについて

2月20日(木) 午後0時30分～4時10分 所沢市中央公民館ホール  
参加予定：長ヶ原さん・小森さん・田尻さん

(3) 平成25年度入間地区社会教育協議会第5回社会教育委員部会

2月7日(金) 午後3時～ 所沢中央公民館 学習室

次回の日程は、3月1日土曜日、午前9時30分からとする。改めて、通知をする。

(閉会)